

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第5号（通算77号）
令和2年9月25日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

三条学講座



【8月4日(火)～6日(木)、毎年人気の三条学「包丁研ぎ講座」です。中学生は「刃物・ものづくり教育」として包丁研ぎを体験します。まずは、教職員が包丁研ぎを学びました。】

「子どもたちのため、自分たちのため」

教育センター指導主事 井口 浩

21世紀は予測困難な時代と言われています。新型ウィルス感染拡大に伴う今の流動的な状況は、まさにそのことを強く実感させるものとなっています。人は自分のそれまでの知識や技能、価値観等を超える問題に直面した時、不安や戸惑いを感じます。そして、この状況を突破するために、それまでの経験を総動員して何らかの行動を起こし、直面する状況に変化をもたらし、その変化を評価し教訓を導こうとします。ドナルド・ショーンは、この営みの繰り返しを、「状況と対話」し「行為の中の省察」を通じて、自ら学び、解決策を身に付け、発展していくこと、すなわち「省察的实践」と述べています。

今後、臨時休業が余儀なくされた時に備え、各学校では、「予習を支える授業動画の作り方」研修を実施しました。例年よりも短かった夏季休業中に行うこととなりましたが、アンケートの感想から、先生方の熱意とアイデアが伝わってきました。学習とは、何か切実な問題が生じたとき、それに対する活動を拡張しながら進むと言われています。子どもたちのための授業動画作りは、自らの授業を省察し教職の資質・能力を広げる機会にもなると思います。グーグルドライブに全校共有フォルダ「三条市立学校」を設置しました。授業動画等の教材を作成・アップし、共有・活用していただければと思います。

「予習を支える授業動画の作り方」研修におけるアンケートの声

「動画作りの手順が分かりやすかった」「教科書を有効活用した分かりやすい動画を作成していきたい」
「教材研究をしっかりとしなければならなかった」「家庭学習に予習を取り入れて慣れさせたい」等

※今回提示したグーグルの Forms によるアンケートは、今後授業で交流活動や小テスト等に活用できます。

瑞穂学園



7月31日（金）、1学期の終業式を終えた後、第2回瑞穂学園職員研修会が本成寺中学校で開かれました。令和3年度に向けて、瑞穂学園の小中一貫教育モデルカリキュラムの自学園化のため各教科部会に分かれて話し合いが行われました。小中一貫教育において、小中の職員が目指す子どもの姿を共通理解することは、とても大切です。各教科における目指す姿や重点等を熱く語り合っている職員の姿が見られました。

三条嵐南学園



9月11日（金）に嵐南小学校で親子一緒に小刀学習を行いました。

三条市は小学生で小刀を使った竹とんぼや竹箸づくり、鉛筆削りを体験します。指導者のシルバー人材センターの皆様は「三条は金物の町、刃物の町。刃物は怖いもの危ないものではない。生活に必要な大切なもの。」と教えてくれます。

保護者の皆様も一生懸命鉛筆を削っていました。

三条学園

裏館小
玄関前



上林小
玄関前

9月9日（水）～11日（金）、毎朝7時45分から10分間、三条学園あいさつ運動が行われました。保護者や地域の皆さんにも呼びかけて行われました。明るく元気なあいさつが交わされ、たくさんの笑顔が見られました。10月に2回目が行われる予定です。

さかえ学園



8月20日（木）に第2回小中一貫教育推進会議が栄中学校で行われました。各係に分かれ、今年度の小中一貫教育を推進するための活動等の共通理解や検討を行いました。集まることが難しい年ですが、教職員が顔を合わせ、話し合いの場をもつことそのものが、とても大切です。春に水仙が咲き誇るフラワーロードは、植える場所を延長することも確認され、来年度も地域の人の目を楽しませる予定です。

三条おおじま学園



8月6日(木)に栄庁舎ホールを使用して、大島学園職員研修「おおじま学園夏の陣」が開催されました。

授業スタンダード研修では、先生方が実践上で困っていることや疑問に感じていること等、生の声を聴くことができました。

また、各教科で小中一貫教育カリキュラムの作成に向けて、話し合う機会を設けることができました。

大崎学園



9月5日(土)に晴天の下、後期課程の体育祭が行われました。前期課程の子どもたちは、学年ごとに時間帯をずらしながら、上級生の頑張っている姿を見学していました。写真は、青軍のパフォーマンスを見学する5・6年生です。

後期課程生徒の姿を見学し、上級生へのあこがれ意識や後期課程への期待が高まる活動となりました。6年生リーダーたちは、10月3日に延期した「前期課程体育祭」の各軍応援に生かしていこうとしているようです。

一ノ木戸ポプラ学園



8月20日(木)に第2回合同研修会が行われました。教科・領域部会では、小グループに分かれて小中一貫カリキュラムについての検討を行いました。その後、講師を招いて「人権教育、同和教育」「特別支援教育」についての講話を聞きました。また、2校連絡会では、「まなび」「こころ」等部会のこれまでの取組の報告と今後の取組計画についての協議を行いました。2学期以降の教育活動についての見通しを明らかにすることができた合同研修となりました。

しただの郷学園



長沢小学校では、生活科の「町たんけん」を始め、保護者や地域の皆様から協力をいただき、地域学習が行われています。

8月25日(火)には、神田板金の神田さんをお迎えして屋根の点検で使っているドローンで空から見える長沢小学校の校舎や、子どもたちの姿を撮影していただきました。様々な場面で活躍しているドローンを間近で見ることができ、とても良い経験をすることができました。

子どもたちのよりよい生活のために ～8月に実施した二つの研修の紹介～

第2回 不登校児童生徒対応力向上 (8月4日実施)

講師 中越教育事務所 SSW 佐藤 恵子 様

不登校の予防・初期対応、関係機関との連携のあり方について、グループワークで学びました。研修では、必要感のある参加者が持参した事例について、外部機関とのつなげ方や児童生徒とその家族との関わり方など、丁寧に検討することができました。参加者からは「アセスメントの視点が分かり、家庭や外部機関との連携の重要性を感じる事ができた」「具体的な対応策や支援の方法を教えていただいた」等の感想が寄せられました。



第2回 Q-U 研修 (8月6日実施)

講師 新潟大学教職大学院 准教授 田村 和弘 様

Q-U 検査の分析後の学級経営に役立てられる取組について講義や演習を行いました。「配慮のスキル」と「かかわりのスキル」を中心に、2学期始めにやること等、受講者が勤務校で取り組むことのできる具体的な内容でした。受講者の多くが学級担任であり、学級ソーシャルスキル(CSS)や構成的グループエンカウンター(SGE)の活動事例を体験できました。

参加者からは「Q-U の結果を参考に、子どもたちが安心、安全に生活できる学級づくりを目指したい」「実際に自分のクラスでやってみたい」「若い学級担任に参加してほしい」等の感想が寄せられ、満足度の高い研修となりました。

「予習を支える授業動画の作り方」研修でいただいた声について

Q : 子どもの予習の取組による理解の差を埋めるためにはどうしたらよいですか？

A : 多くの子どもが予習できるように努めて事前指導することが大切です。

その上で、予習を課した後の授業では、必ずその内容を確認しながら進める必要があります。参考までに6月30日に実施した新学習指導要領対応研修で、新潟大学一柳智紀准教授は、「対話的な宿題」が重要であるとし、予習して分からなかったところを中心に他者とかかわりながら解決することを例示されていました。



Q : 学習支援動画を視聴できない子どもへの対応はどうしたらよいですか？

A : 以前の臨時休業時の対応のように、該当する子どもには電話で状況を確認したり質問に応じたりすることが大切です。

Q : 教材の共有や提供がしやすくなるとよいのですが、そのための取組はありますか？

A : 各学校の実態や対象(題材や課題)に応じて教材を作成・提供することが原則ですが、市ではグーグルドライブに全校共有フォルダ「三条市立学校」を設置しましたので、各学校がそこにアップすれば、それを市内のどの学校も活用できるようになります(三教一貫号外、令和2年9月1日付を参照)。

また、県立教育センターでは次の中で学習支援動画を提供しています。

- ・Web 配信集計システム (<https://niigata-education2010.jp/sys/menu/index>)
- ・Tea Room「教材・資料を探す」

(<https://www.niigataeduc-support.jp/app/document/index?clear=1>)

なお、子どもがその動画にアクセスするためには、各学校が対象とする動画を決めて、動画ごとのURL(上記URLではありません)あるいはQRコードを各学校が子どもや保護者に示すことになっています。必要に応じて御活用ください。